

日本災害看護学会先遣隊 令和6年8月日向灘地震活動報告

2024年8月10日(土)

活動隊員：藤田さやか、三橋睦子

1. 活動日時 2024年8月10日(土) 12:00~19:00
2. 活動場所 宮崎県宮崎市
3. 被害状況

8月8日16:42日向灘(深さ31km)でM7.1の地震が発生し、気象庁が南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)を発表した。宮崎県日南市で震度6弱を観測し、8月10日12:00現在、震度1以上を観測した地震が16回発生している¹⁾。津波注意報は8月8日22:00までに全て解除された。人的被害は近隣県合わせても重症2名、軽症12名(宮崎県で重症2名、軽症7名)、住家被害はいずれも鹿児島で全壊1棟、一部破損2棟である。土砂災害が鹿児島県で1件発生しているが人的被害なし。宮崎県日南市で国道220号が落石により一部通行止めとなっているが、高速道路・有料道路・他国道の通行止めはなく、河川も異常なしと報告されている²⁾。

1)気象庁 報道発表(令和6年8月9日15:30)、令和6年8月8日16時43分頃の日向灘の地震について(第2報)及び何回トラフ地震関連開設情報(第1報)、

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2408/09a/kaisetsu202408091530.pdf>

2)国土交通省 災害情報(令和6年8月10日16:00)、宮崎県日向灘を震源とする地震による被害状況等について(第6報)、<https://www.mlit.go.jp/common/001758979.pdf>

4. 天候

晴れ(降水確率:40%)、最高気温33度、最低気温26度

5. 活動の実際

12:30 宮崎駅にて合流

情報共有及び活動予定の確認

16:00 宮崎県看護協会

事前に連絡をした上で、N氏と面会。協会が把握している限りでは、県内の被害状況はニュースで報道されている通りで、病院及び看護職の被災はなく、通常通りの体制となっている。訪問時は協会主催の研修会が予定通り開催されていた。学会先遣隊の目的と役割について説明し、今後の災害時に連携が取れる体制を構築していきたい旨をお伝えした。

17:00 宮崎大学医学附属病院及び医学部看護学科

JANPU 災害支援委員会 九州・沖縄災害連携委員であるS氏にご案内いただき、病院・大学内の被害状況を確認した。建物の接合部のズレ、壁や天井の一部の剥落を認めた。一時は停電・ガスの停止があったが現在は回復している。また、ヘリポートの一部にひび割れがあり、ヘリポートからの離発着を見合わせ、格納庫からの離発着を行っていたが、翌日の構造物診断士による点検により問題がないとの判断で、訪問時にヘリポートからの離発着は復旧していた。看護学科棟では、学科長Y氏と領域長O氏も同行いただき、各階の同位置に設置されているエアコンの水漏れや、壁や天井の一部の剥落箇所を確認した。破損箇所については、安全性と利便性の確保を考慮しつつ、優先順位を持って修復していく予定とのこと。発災翌日にオープンキャンパスも予定通り実施された。発災時はテスト期間中で、発生時には学内にほとんど学生がいなかったとのこと。セキュリティ企業開発の安否確認ツールにより、教職員・学

生の安否確認が外注にて実施されている。災害時の備えとして、自動販売機の設置、リネン・毛布の備蓄、駐車場屋根のソーラーパネル取り付けが進められている。なお、附属病院での避難訓練は実施されているが、看護学科での避難訓練の実施が今後の課題であると考えられている。

19:00 宿泊場所周辺にて、本日の活動内容と明日の予定を確認し、活動を終了した。

21:16 日向灘で震度2の余震が発生し揺れを感じたが、津波の危険はなし。

6. 考察

発災後2日目であるが、ほぼ被害状況が把握されており、宮崎市内の地震による人的被害・住家被害はほとんどない。保健医療の中核である大学附属病院においてもライフラインや建物の被害はあったが、通常診療が継続できるレベルであった。今後の災害に向けての備えの確認を行なっている段階であり、学会とのネットワークの構築・強化を見据えて顔の見える関係の構築に務める。

7. 参考写真



建物の接合部のズレ



エアコンの水漏れ



建物の破損



駐車場の屋根に設置されているソーラーパネル